

南部地区小学校の適正配置に係る説明会 会議録

1. 日 時：令和5年6月30日(金) 開会：午後7時30分／閉会：午後8時30分
2. 会 場：栄小学校 体育館
3. 参加者：小学校保護者1名、一般町民20名 計21名
4. 事務局：教育委員 望月正宏教育長職務代理者、山本純司委員、渡邊正志委員
教育長 入月一巳教育長
学校教育課 若林将基課長、稲葉啓介主幹、岩田茂樹副主査、
山口淑乃主事補

5. 次第

- ① 開会 (司会) 稲葉主幹のあいさつにより開会
- ② あいさつ 入月教育長からあいさつ
- ③ 教育委員及び職員紹介
- ④ 南部町立小学校適正規模に関する具申書の南部地区小学校の適正配置に関する
具体的方策案について

ア 具体的方策案の説明

当日配布した、南部町立小学校適正配置に関する具申書の南部地区小学校の適正配置に関する具体的方策案説明資料に基づき、若林学校教育課長が説明する。

説明事項は、経過、本町児童数の推移、小学校の規模、具申書の内容、具申書の作成に係る基本的な考え方、今後の予定等。説明時間は概ね30分間。

⑤ 質疑応答及び意見交換

質問：南部町の出生数について、活性化策が上手くいくことを前提として、20年後は年間40人くらいになると見込まれると聞いたことがある。これは、19歳から40歳までの女性の数から算出している。活性化策が上手くいかなかった場合、20人くらいになるという仮定を、個人的に立てている。南部町の人口を毎月チェックしているが1年間で160人～170減っているので、5年で大体800～900、それがずっと続いている。同じように本日の資料のデータを見ると、5年のスパンで900人くらい減っていて、途中からは700人くらい減っている。

この推計では、南部町で、あと15～16年で20数人、多くても30人くらいしかお子さんが生まれてこない見込みである。今日の教育委員会の説明では、統廃合は令和8年度を目途にして、旧町単位の枠組みでということであった。先の事は考えていないかもしれないが、今後、児童数が減ってきた時に、もう一度統合を検討するようなことはあるのだろうか。

前回の富河小と万沢小の統合時にも、町で1校にという意見もあり、私もそのような形で進めて行けばいいのではと思っていたが、町の意向や学校間の競争を促す意味もあり、旧町単位の枠組みで行うという事だった。令和8年に統合し、数年経過してから1校にしようとやがて進むのかどうか、仮定の話のため何も計画にはありませんということであればそれはそれで結構だが、その辺のことをもう少し検討する必要があるのではないかと思う。栄小の子どもが少なすぎるという点において、統合自体は早く統合を進める必要があると思うが、どのように考えているか。

回答：前回の統合時に、今言われたようなことが、意見としてありました。実際に何人かの方は、これだけ減っていく子供の数を見た時に、町内で1校にという意見を持ったのだと思います。しかし、資料にもあるように、H29にアンケート調査を行い、AグループとBグループを基本とするという案に対して、町民の90・6%の方が賛成をしていただき、そのうえで富河小と万沢小の統合を進めました。統廃合は、町をあげての問題ですので、今までの町で行ってきた適正配置の経緯等を、今後も尊重していくべき姿勢が必要という結論に至っています。

人数の問題のご指摘がありました。本日の説明にもあったように、私たちが注目したのは昨年の子供の数です。転入数と転出数を見ていくと、転入が多かったです。また、今この時点で、秋に3人転入してくるという見込みもあります。中部横断自動車道や富士市へ架かるかりがね橋の開通による期待もあります。統計的な数字だけで判断するのは、今はできないのではないかと思います。それ以外にも、一番大事なことは子供の安心安全を確保するにはどうしたよいかだと思います。仮に1校となると、通学時間や距離が長くなり、バスに乗る時間も長くなります。中学生は十分通学できると思いますが、小学生の負担は大きく、特に低学年は心配です。このように1校になると子供たちに負荷やリスクがかかります。これらのことから、従来の旧町単位の枠組みの適正配置案を引き継ぎながら考えていますので、ご理解をいただくとありがたいです。

質問：令和8年度以降に関しては何も決まっていないということですか。

回答：今現在ではそのとおりです。

質問：私の場合、廃校になった後のことが心配だ。住民にとっては栄地区がどうなるのか。

最近、総合会館がなくなり、ぴゅあ峡南が移転し、そのうえ栄小が閉校になった時

の様子を想像すると、寂しい町になるのではないかと思う。何をお願いしたいかと言うと、旧万沢小学校が令和2年に閉校になり、その後の学校施設の利用について、やっと今年2月に、事業者の説明会を行ったが、それを教訓にして早めに取り掛かってもらいたい。まずアンケートを取って、事業者が公募で決定したならば、事業者の説明を受けて、それを踏まえて住民の意見を聞いてほしい。

栄小学校は、閉校まで3年あるということだが、3年はあるという間だからもっと早くできる事をやって、余裕をもって令和8年を迎えてほしいと思う。

回答：空き学校の利用については、教育委員会だけでは決められないので、町全体の課題として取り組みます。今言われたとおり、栄小学校については、総合会館やびゅあ峡南がなくなることから生涯学習施設としての役割、防災上の施設としての役割、及び他の公共施設の複合化など、総合的に検討し、地域の方の意見を聞きながら進めて行く予定です。

旧富河中学校は、平成23年の3月に閉校して10年後の令和3年11月に総合センターという複合化施設に生まれ変わりました。この施設には、富沢図書館、教育支援センター、放課後児童保育施設及び県の施設であるびゅあ峡南が入っています。転用までに時間はかかりましたが、地域で必要な機能を有した複合化施設として運営しております。旧万沢小学校は、コロナ禍の中でこれまで3年が経過しましたが、今後の活用については、現在、公募申請のあった事業者と協議しています。その事業所は、おかえり集学校事業という地域コミュニティの拠点となるような事業を行い、またICT教室や地域への貸館事業やワーキングスペースを設ける事業を行う計画だと聞いています。栄小学校についても、今後、統廃合が決まり跡地利用するにあたっては、先例を踏まえ、出来る限り早く検討していきたいと思いません

質問：事業者の決定にあたっては、町民に説明してほしい。町民は、わからないことが多く、どういう事業者なのか、どのように貸付け、どのように運営していくのかなどを説明してほしい。

回答：承知しました。担当課に伝えておきます。

質問：総合会館がなくなり、総合会館が指定避難所になっていた内船上区の一部の住民たちは、上組分館へ行くことになるが、分館は狭いので、収容しきれない場合は、栄小学校に来ることになる。防災拠点の避難場所としてこの体育館を残すという形になっても、他地域からの避難者もあってコロナ感染症の状況によっては心配がある。また、富士川や中村川の氾濫等を考えると、栄小学校も安全なようで安全でない。また、東海沖地震と東南海地震のことも検討する必要があると思うので、閉校後のことについては、かなり防災担当を含めて検討をお願いしたい。総合会館の跡地は、駐車施設になると思うので、そこには避難できないので、栄小体育館しか

頼る場所がない。上組分館は、50人位しか避難できないだろうと感じた。体育館がどの程度の対応できるか気になるので、防災対策を含めてこの跡地の検討をしてほしいと思う。教育委員会だけでは回答ができないと思いますから、協議してください。

回答：総合会館は、内船上区の指定避難場所でありました。交通防災課では、それらの代替施設について検討しています。現状では、指定避難所となっている栄小学校の体育館や避難所となっている校舎等を有効に使用することが想定されます。跡地利用については、浸水想定区域であることも踏まえ検討していきます。いずれにしても、体育館の指定避難所の機能や校舎の避難所機能は、継続して維持していくことになる見込みです。今後、防災対策については、交通防災課ともよく協議して進めていきたいと思えます。

教委から補足説明：この説明会で3回目になります。22日に栄小、27日に睦合小で開催しました。栄小学校につきましては26名の方の出席をいただきました。睦合小では28名の参加をいただきました。今後しっかりと適正配置についてお知らせするために、ダイジェスト版を全戸配布し、広く町民の皆様に周知をしたいと考えています。その後、私どもの考え方にご理解をいただけたか南部地区を対象にアンケート調査を実施します。

6.その他

特になし

7.閉会

司会による

以上